

南太秦だより

平成29年度 後期学校評価結果

平成29年度後期学校評価結果 臨時号

京都市立南太秦小学校
校長 二宮 靖男

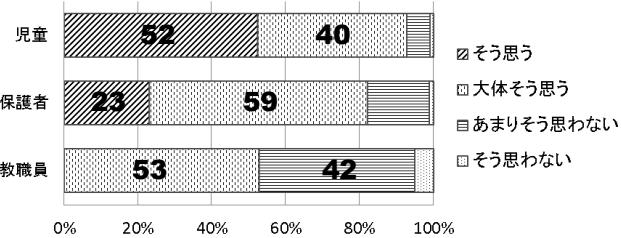
「南太秦小学校の教育に関するアンケート」にご協力いただき、ありがとうございました。前期の結果と大きな変化は見られませんでした。今回は前期の結果との比較や学年別に考察する中で気づいた点などをまとめています。

確かな学力

学ぶ意欲があり、進んで学習する子

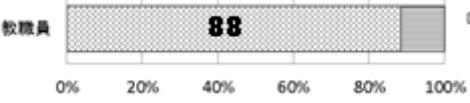
①

基礎学力が身に付いている（漢字の読み書き・計算ができる）



前期（10月実施）

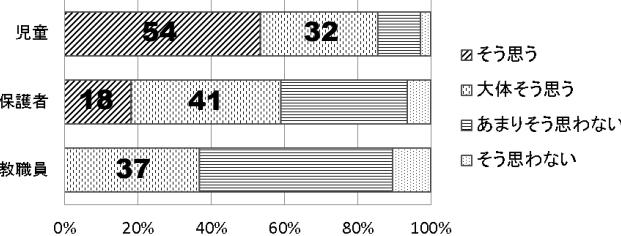
基礎学力が身に付いている（漢字の読み書き・計算ができる）



⚠ 教職員の「そう思う」の評価が
30%以上低下しています。

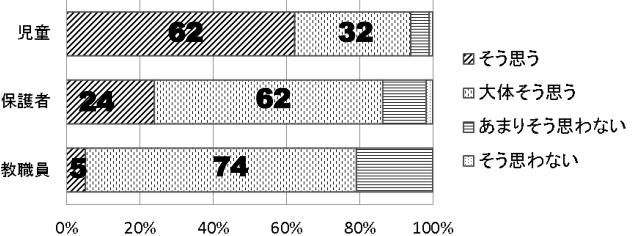
②

家で宿題・学習はしっかりやっている（自分から進んで）



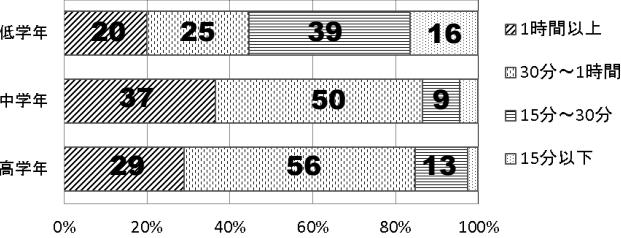
③

学校の勉強はよくわかっている



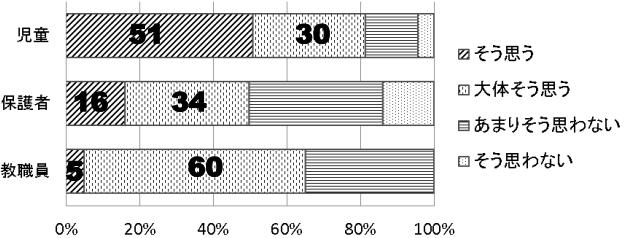
④

家の家庭学習の時間（宿題・自主学習を含む）



⑤

読書の習慣がついている



【考 察】

今回は児童の学習時間（宿題・自主学習）についての質問項目を設けました。（項目④）学年が上がるにつれて家庭学習の時間が長くなることが理想ですが、今回のアンケートでは、高学年で若干短くなる傾向が見られました。この傾向は②『おうちでの宿題・学習は自分から進んでやっている』①『漢字の読み書きや、算数の計算はできている』の質問項目においても見られ、基礎学力の定着と家庭学習に相関関係があると考えられます。

児童 ②『お家の宿題・学習は自分から進んでやっている』

	高学年	中学年	低学年
よくあてはまる	49 %	52 %	59 %
すこしあてはまる	29 %	40 %	27 %
あまりあてはまらない	19 %	4 %	12 %
ぜんぜんあてはまらない	3 %	4 %	2 %

児童 ①『漢字の読み書きや、算数の計算はできている』

	高学年	中学年	低学年
よくあてはまる	38 %	58 %	59 %
すこしあてはまる	53 %	33 %	38 %
あまりあてはまらない	9 %	6 %	3 %
ぜんぜんあてはまらない	0 %	3 %	0 %

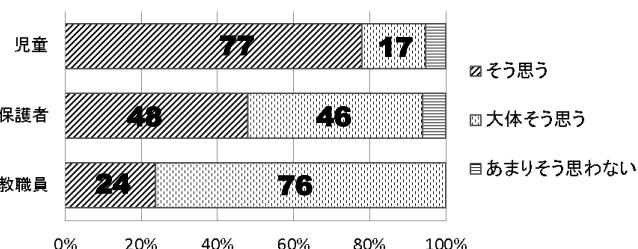
「家に帰ったらすぐに宿題をする」「決めた時間は学習に向かう」など家庭学習の習慣化は、学習時間や内容の負担の小さい低学年からの意識づけが大切です。小さな習慣が今後の大きな成果へとつながります。教職員の評価からも基礎学力の定着に課題があると感じていることが分かります。基礎学力定着のために、清掃後の10分間の『昼学習』の活用や宿題の系統性の見直しを検討していく必要があると考えています。

豊かな心

他者を思いやる心をもち、人やものを大切にする子

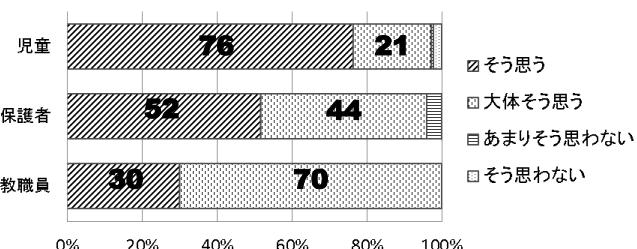
⑥

学校は楽しい



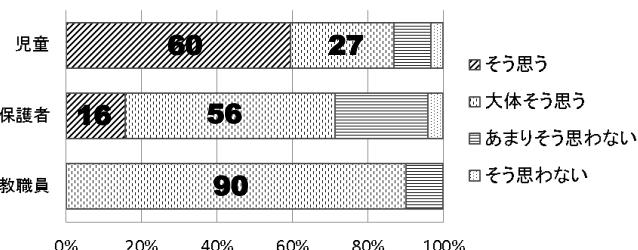
⑦

仲間外れにせず、仲良く遊んでいる



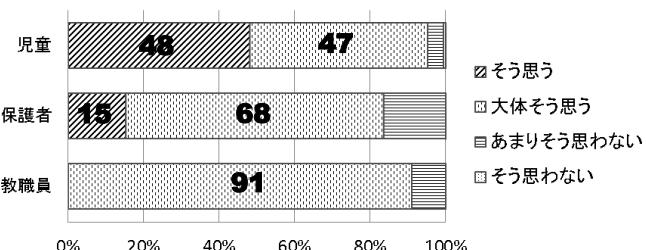
⑧

困った時に教職員に相談している



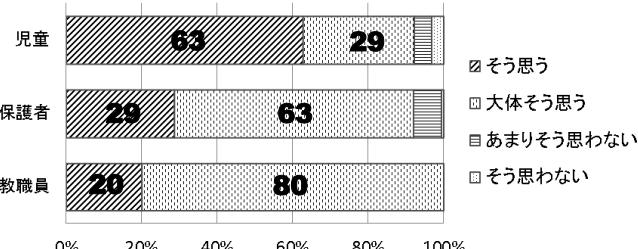
⑨

思いやりのある話し方ができるている



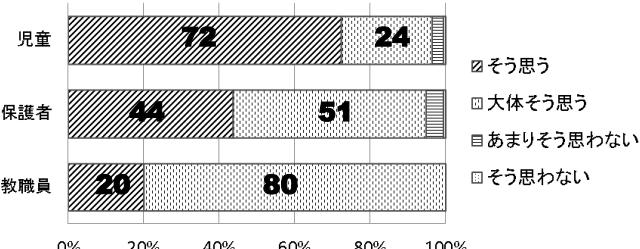
⑩

友だちから良いところを分かってもらっている



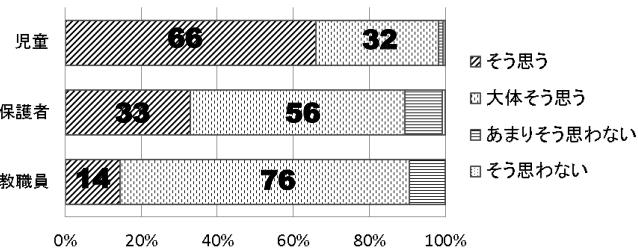
⑪

先生から良いところを分かってもらっている



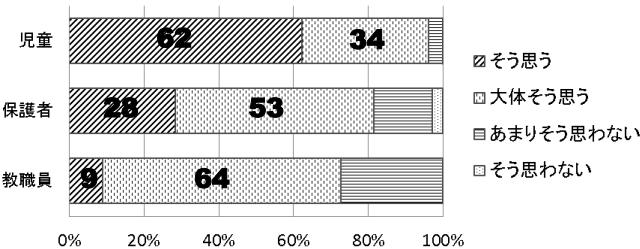
⑫

決まりや約束を守っている



⑬

進んであいさつをしている



【考 察 ①】

⑦『仲間外れにせず、仲良く遊んでいる』の項目について、わずかですが3者ともに上昇しています。1年間の様々な行事を通して友だちとのつながりが強くなったということを感じているのではないかと思われます。しかし、学年別で結果を見ると、低学年で「ぜんぜんあてはまらない」が約5%，中・高学年では約1%ずついました。アンケート後の個別の聞き取りでは、「嫌なあだ名で呼ばれた」「馬鹿にされた」ということが分かっています。現在は解決しているとのことですが、今後も子どもの発する小さな変化やサインを見逃さないよう注意し、子どもたちが楽しく安心して学校生活を送れるようにしていきます。

⑧『困った時に教職員に相談している』の項目では、「あまり思わない」「そう思わない」保護者の割合が約30%近くあります。児童については全体で、「そう思う」「大体そう思う」の割合は90%近くありますが、学年が上がるにつれてその割合が低くなっています。子どもたちの年齢が上がるにつれて相談相手が親や先生などの大人から友だちへと変化していくことは否めません。しかし、⑪『先生はわたしのよいところを分かっている』の学年別の結果からも、子どもたちが自分では解決できない困りに出会った時、教職員がすぐに相談できる大人としてなり得るのか検証する必要があると考えています。

⑥「友だちといじめやなかまはずれなどをせず、なかよくしている」

	高学年	中学年	低学年
よくあてはまる	77 %	80 %	69 %
すこしあてはまる	21 %	19 %	25 %
あまりあてはまらない	1 %	0 %	1 %
ぜんぜんあてはまらない	1 %	1 %	5 %

⑧「先生は、わたしのよいところをわかっている」

	高学年	中学年	低学年
よくあてはまる	40 %	61 %	75 %
すこしあてはまる	39 %	24 %	20 %
あまりあてはまらない	18 %	8 %	5 %
ぜんぜんあてはまらない	4 %	7 %	0 %

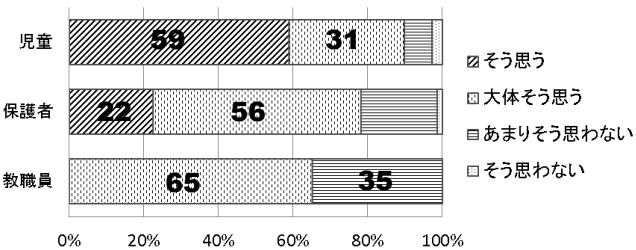
【考 察 ②】

『進んであいさつをしている』の「そう思う」の割合が児童、保護者、教職員ともに増加しています。子どもたちの中で少しずつ「あいさつ+おじぎ」が定着してきているようです。また、地域の方からも挨拶の声が増えてきたとうれしい言葉を聞いています。気持ちの良い挨拶ができる南太秦の子どもを目指して今後も継続して指導をしていきます。

健やかな体　自分の体を大切にする子

⑯

規則正しい生活を送っている



平成29年度 学校教育目標

『進んで学び合い こころ豊かにたくましく生きる子の育成』 ～主体性・社会性の育成～

「おはよう」「なかよし」「やりぬく子」

【考 察】

保護者の評価傾向に変化はありませんでしたが、児童の「よくあてはまる」が前期よりも5%減少しています。アンケート実施時期が2月ということが影響しているかと思われます。学校保健委員会やほけんだより等でもお伝えしていますが、本校児童の特徴として低学年の評価が低い傾向が見られます。低学年の就寝時刻の設定が早いと感じられるかもしれません、7時前に起床している割合が2~5年生とあまり変わらないということを考えると、子どもによっては十分な睡眠時間が確保できていない恐れがあります。睡眠時刻が遅くなる要因は様々だと思われますが、子どもの睡眠習慣は大人の生活スタイルを映す鏡とも言われます。家族みんなで生活リズムを見直してみてはどうでしょうか。

児童 ⑯「早寝・早起き・朝ごはん」を守っている

	高学年	中学年	低学年
よくあてはまる	63%	60%	56%
すこしあてはまる	30%	32%	32%
あまりあてはまらない	6%	7%	6%
ぜんぜんあてはまらない	1%	1%	6%

低学年の子どもたちも自分が「早寝・早起き・朝ごはん」が守れていないと意識をしているようです。

各家庭での継続した声かけをお願いします。



自由記述より（一部抜粋）

- ◆ 丁寧に指導していただき、子どもらしく学校生活を送ることができます。先生に感謝しています。高学年を迎える、これから大切な時期になるので、家庭でもしっかり子どもを受け止めていきたいと思います。
- ◆ クラスでの小さな問題は、できるだけ学校で対応してもらいたいです。
- ◆ 様々な教職員の方の目で子どもたちを見守り、育てていただいていると感じます。いつもありがとうございます。
- ◆ 以前は100マス計算をしていました。また、復活させてほしいと思います。
- ◆ 給食のときの指導に違和感がある。
- ◆ 子供本人なりには精一杯がんばっていると思います。

貴重なご意見をたくさんいただきありがとうございました。先日の「新年度に向けた学校教育説明会」でもお伝えしましたが、平成30年度、京都市は「新学習指導要領の先行実施」「新しい3学期制」など教育の分野で大きな変化の年となります。また、本校でも『交流』と『自律』をキーワードとした「毎年度の学級編成替え」を実施していきます。取組や指導の中で気づかれたことや気になったことなどがあれば、ご遠慮なく学校までご相談いただければと思います。

子どもたちの「生きる力」（確かな学力・豊かな心・健やかな体）の育成と健やかな成長には、「学校」「家庭」「地域」三者の連携・協働が不可欠です。今まさに新しい社会に根を張り、伸びていこうとする子どもたちの土壤を作り、支えていくのは私たち大人の役割です。今後とも本校教育へのご支援・ご協力よろしくお願いします。

「確かな学力」について

- ◆ 前期の評価と比較し、「基礎学力が身に付いている」児童が若干下降している。教職員については大幅に下降している（「そう思う」88%→53%）のが気になります。また、「家で宿題・学習はしっかりやっている」についても児童の評価が大幅にマイナスになっている（「そう思う」74%→54%）ことも大変気になります。中学校進学後、自ら家庭学習に取り組む力がついていないと高校受験の時に困るのではないでしょうか。（*教職員に関しては母数が少ないために、変動幅が大きくなります。）
- ◆ 学ぶ以前の生活面での支えが大切だと思います。家庭での学習環境はどのような様子なのでしょう。
- ◆ 宿題については、学年が上がるにつれて家庭で教えることは難しくなるとは思いますが、保護者はきちんと取り組めているのか声をかけたり、確かめたりすることは大切なことではないでしょうか。宿題や持ち物の確認は、高学年になっても必要かもしれません。児
- ◆ 子どもたちの宿題を見る機会がありますが、1年生でも何が問われているのかが分かりにくい問題があるように感じます。

「豊かな心」について

- ◆ 「仲間外れにせず、仲良く遊んでいる」「進んでいさつをする」の教職員の評価が大幅に上昇している。これまでの指導の成果が出ているのだと思います。
- ◆ 何気なく言った言葉が言われた方にとっては嫌な言葉だったというのは、低学年子どもではよくあることかも知れません。
- ◆ 教職員の多忙化が言われる中で、じっくりと子どもの話を聞ける時間が確保できるのでしょうか。また、共働き家庭が増える中で、どれくらい子どもの話を聞いているのでしょうか。子どもにとっては親身になって話を聞いてくれる大人の存在が心の安定に繋がると思います。
- ◆ 昔よりも、家族でレジャーを楽しむことが多くなったと思う反面、家庭の中で子どもの優先順位が下がってきているようにも感じます。大人の楽しみが優先されている場面を見かけます。

「健やかな体」について

- ◆ これまで関わってきた子どもを振り返ると、自分で時間を決めて行動したり、物事に取り組んだりできる子どもが、結果的に力をつけているように思います。
- ◆ 保護者の評価にあまり変化がないということは子どもに成長がないということでしょうか。それともあまり学校教育に関心がないということでしょうか。



アンケートへのご協力・ご意見ありがとうございました。今後の教育活動に生かさせていただきます。